

## 12月の植物

### ヒイラギ 柵 (モクセイ科)

学名 : *Osmanthus heterophyllus* (G.Don) P.S.Green

植物観察会で判定が難しい樹木がよく出てくる。ヒイラギもその1つ。ヒイラギの葉には刺状の鋸歯があるのですぐ分るが無く全縁のものに時々遭遇する。「これは何ですか？」と先輩に尋ねても「うーん！」と首をかしげられていた。「老木になると葉は全縁になる」とあり、故倉成靖任先生はよく「年ば取るぎ、ヒイラギのごと丸くならんば」とよく言われていたことを思い出し反省している。

ヒイラギは雌雄異株の高さ 4~8mになる常緑小高木。葉は対生で厚く表面は光沢があり、裏面は淡緑色で緑色の細点がある。花は 11 月~12 月頃、直径 5 mmの 4 裂する香気のある白色の小花を葉腋に束生する。東北南部から沖縄の沿海から山地の林内に生え、庭木としても植栽される。「佐賀県植物目録」に掲載が無く、佐賀県には分布しないらしい。観察会で見たものは植栽木だったと思われる。和名のヒイラギは「疼木」で疼は痛む意味。葉の刺に触れると痛いから。節分にヒイラギの枝葉を戸口に刺し邪気の侵入を防ぐ風習があるが、佐賀県小城市では魔除けとして玄関の横に植える。よく似たヒイラギモクセイとは刺状鋸歯が 8~10 対あるのに、ヒイラギは 2~5 対あるので葉形で区別できる。

文責：井手 義信



2017.12 佐賀市

参考文献：

樹に咲く花 (山溪ハンディ図鑑 5) 「佐賀の街路樹・庭園木」 「新牧野日本植物図鑑」